

調査研究報告書

無形文化財保護のための
熟練染色技能者の姿勢の研究

— 型紙工芸師とその作業姿勢の研究 —

服 部 等 作 (神戸芸術工科大学 芸術工学部)

1995

財団法人 姿勢研究所

2. 要旨

洋服を代表とする西欧スタイルが定着した今日、日本では衣・食・住における多くの伝統的な形式が急速に失われつつある。とりわけ日本文化の一つである和服はなれが急速にすすみ、同時にその製作を支える伝統と技術そのものの存続が危ぶまれている。こうした伝統産業の技術をささえる技能、手作業の一部は、コンピュータ支援による設計を利用したCAD・CAM技術による代替が試行されつつあるが、全体としては取り残されている現状である。

本研究では、和服を製作する時のデザインの模様である「型紙」の製作における作業姿勢を研究の主題として、工程別の作業（製作）姿勢において姿勢研究をすすめた。

研究の方法は、形態的側面として長時間の拘束作業が与える姿勢への負担とその影響、さらに生理学側面として筋電図による計測調査をすすめた。結論的に「型紙」の作業では、長時間にわたる精密な目視をつづける穿孔作業のため、動作の固定状態に近い拘束による姿勢の安定を強いられ、筋電図にも上腕筋、背筋、眼精疲労などの負担がみられる。一方で熟練した職人的技術によりその姿勢負担を克服している。本研究の結果、熟練技術の工程を計測、記録する事によって問題点と共に姿勢研究による伝統技術継承の手掛かりを得た。

3. 緒言

本姿勢研究でとりあげる対象は、日本の代表文化の一つである和服を染めあげる文様の「型紙」製作の工程にかかわる姿勢研究である。それらの加工製作には道具類を用いてさまざまな文様をデザインし、道具刀を調整し、穿孔することにより和服生地を染色する独自の「型紙」となる。この「型紙」の文化に影響をうけ触発された欧米のステンシル技術、さらには今日のシルクスクリーン技術に至る波及効果があったことは述べるまでもない。

「型紙」製作には多くの作業形態、工程が含まれ、使われる道具は様々で、それぞれが高度に専門化している。当然ながら「型紙」製作において創作－穿孔による熟練のなかの一つの連続した座作業中心の姿勢が発生し、今日、その熟練作業に集約された姿勢は、後継者を寄せ付けないでいる。このような状況のため伝統として存続が危ぶまれる状態にありながらも、依然として我が国の繊細な職人技術の持ち味を活かした伝統産業の一つを形成している。

本研究の目的は、以上述べた「型紙」製作作業と目視作業の条件を研究することにより伝統文化の継承のための基礎研究をめざす。